

## 27PE-am010

名古屋市立大学薬学部における早期体験学習「透析施設での患者面談」の試み  
○木村 和哲<sup>1</sup>, 菊池 千草<sup>1</sup>, 前田 徹<sup>1</sup>(<sup>1</sup>名市大院薬)

【目的】本学の早期体験学習は、病院薬剤部や保険薬局、製薬工場見学などでの見学を中心としたプログラムで行なってきた。しかし、見学型の学習では受身の学習になってしまい学習意欲向上には限界がある。コミュニケーション能力の向上、チーム医療をイメージするためにも参加型の学習プログラムの導入が不可欠である。今回は、実際に医療現場で患者さんと面談することで、患者の立場から医療を考え、医療を学ぶものとしての自覚を持たせることに重点を置くために、「透析施設での患者面談」を企画した。

【方法】透析施設での患者面談は名古屋第二赤十字病院・血液浄化センターの協力を得て、1グループ6人で引率教員1名が同行し、外来透析患者と1対1で約40分間面談した。学生には事前教育として腎不全の病態および透析療法の講義をした。質問項目は食事、健康維持の方法など日常的な事柄に限定し、服用薬剤に関する質問はあえて行なわなかった。事前に患者より面談の可否を伺い、了解が得られた患者のみ面談した。面談は状態が落ち着いている透析開始およそ2時間後に、ベットサイドで行なった。

【結果・考察】事後評価はアンケート、レポート提出、参加者による Small Group Discussion を行なった。アンケートでは92%の学生が「非常に興味深かった」「興味深かった」と回答し、病院薬剤部・保険薬局の2倍以上の満足度が得られた。学生全員が事前学習の必要性を認め、見学だけでは得られない学習に対する積極性が見られた。透析患者は、様々な疾患の治療歴があり合併症も多く有しており薬学生にとって非常によい「臨床の先生」である。今後、この患者面談を早期体験学習の一部として取り入れさらに充実させていきたいと考えている。